

札幌都心の 2050 年に向けた挑戦

札幌の“顔”である都心部は、1972 年の冬季オリンピック開催を契機に都市基盤が急速に整備され、その後も都市の魅力の向上やにぎわいの創出に向けたまちづくりが進められてきた結果、市民はもとより、世界中から訪れる多くの人々から愛されるまちへと飛躍的に発展しました。その一方で、都市環境を保全するための取組も地道に進められてきたため、都市機能が高度に集積したまちの中でも、私たちは快適で豊かな暮らしを享受できています。このような先人たちの努力により築き上げられてきた都心は、40 年あまりの年月が経過し、リニューアルを加速させる時期を迎えようとしています。

建物の更新サイクルなどを踏まえ、長期的な視点でこれからの都市の姿を見据えると、更なるグローバル化の進展や経済・社会構造の変化、そして、低炭素・脱炭素社会の形成に向けた国際的な枠組みの構築など、世界規模で複雑に変動する外的な要因に対し、環境・経済・社会の観点でバランスよく適応しながら、持続的に発展し続けられるまちづくりが重要となります。

特に低炭素化に関しては、社会的・倫理的な観点から取り組む必要性はもとより、最近ではそれに向けての対応が経済的な観点からも重視されはじめ、今後さらに高まる傾向であることから、積雪寒冷地で多くのエネルギーを消費している札幌では、全ての施策の中で最も根幹をなすものとして重点的に取り組む必要があり、とりわけ、都心部にはそれを先導する役割が求められます。

そのため、札幌都心の低炭素で持続可能なまちづくりのビジョンと、その実現に向けた戦略を示す「都心エネルギーマスタープラン」を今回策定しました。これから先の札幌都心の姿を見据え、長期的かつ包括的に取組を進めることで、“世界から注目と信頼を集める低炭素で持続可能なまち”を築き上げ、将来を担う次の世代へと引き継いでまいります。2050 年に向けたこの挑戦は、札幌の力を一層高め、将来に渡る健全な発展へと導くものと私は確信しています。

それを実現させるためには、何よりも多様な関係者の協力が不可欠となります。市民をはじめ、まちづくりに関わる全ての人々が手を携えながら、世代を超えた取組を一步ずつ着実に進めてまいります。

最後に、本プランの策定にあたり、ご尽力いただきました都心エネルギープラン検討会議の委員の皆様と、貴重なご意見をいただきました市民の皆様にご心から御礼申し上げます。

平成 30 年（2018）年 3 月



札幌市長 秋元克広

都心エネルギーマスタープラン 本書 目次

第1章	プラン策定の背景と位置づけ	1
1-1	札幌市を取り巻く背景	2
1-2	都心を取り巻く背景	4
1-3	都心のまちづくりと環境エネルギー施策に関わる変遷	6
1-4	都心エネルギープランの位置づけと構成	8
1-5	対象区域と現況	14
第2章	将来像と基本方針	22
2-1	まちづくりと環境エネルギー施策で実現する都心の将来像	22
2-2	都心エネルギープランの理念	24
2-3	基本方針	25
2-4	CO ₂ 削減に向けた目標設定と考え方	26
2-5	取組を推進するエリア区分	28
参考	都心のCO ₂ 排出量の削減イメージ	29
参考	エネルギーの面的利用の展開イメージ	30
第3章	取組の方向性	31
3-1	目標の実現に向けた計画課題	31
3-2	『低炭素』の取組の方向性	34
3-3	『強靱』の取組の方向性	41
3-4	『快適・健康』の取組の方向性	46
3-5	更なる持続的な発展に向けた取組	51
第4章	計画の推進	53
4-1	取組の進め方	53
4-2	推進体制	55
4-3	計画の管理・見直し	57
4-4	関係者の役割分担	57
4-5	都心エネルギープランの実現に向けて	58
参考資料		59
資料1	策定の経緯	59
資料2	パブリックコメント	72

【第1章 プラン策定の背景と位置づけ】

策定の背景：都心部の低炭素化の必要性

まちの更新に合わせた競争力の強化、魅力や活力の創出の必要性

位置づけ：第2次都心まちづくり計画と一体的に展開する環境エネルギー施策の指針

【マスタープラン】2050年に向けた「将来像」「目標」「基本方針」

【アクションプラン】10年間の「中期実施計画」

計画期間：2017～2035年（目標期間：2050年）

対象区域：第2次都心まちづくり計画の対象区域をベースとして、既存の地域熱供給エリアやまちづくりの動向などを勘案して設定した約300ha

【第2章 将来像と基本方針】

<理念>

～豊かな暮らしを受継ぎ、世界から信頼される都心の実現へ向けて～
環境エネルギーの先駆的な取組とイノベーションへのチャレンジをつづける

<基本方針>

エネルギープラン
の基本方針

低炭素

強靱

快適・健康



都市全体の持続可能な発展へ

環境 / 経済 / 社会

<数値目標>

2050年までに建物から排出されるCO₂を2012年比で80%削減

【第3章 取組の方向性】

		低炭素	強靱	快適・健康
期待される効果	取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 建築物建替時等の省エネルギーへの誘導 コージェネを核としたスマートなエネルギーの面的利用の拡大 地域新電力による再生可能エネルギー電力の利用拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 分散電源比率を増やし非常時の自立機能を強化 非常時の避難・一時滞在場所に対する電力・熱・水の供給継続 エリアマネジメントによる建物と公共空間等が連携した防災対策の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 健康増進に向けた歩きやすいまちづくりへの支援 札幌らしい季節感を感じる屋外空間の充実に向けた対策 四季を通じて快適に過ごせる屋内空間の創出への貢献
	環境	<ul style="list-style-type: none"> 既成市街地の更新に合わせた大幅な低炭素化とエネルギー転換 エネルギーの地産地消による持続可能なモデル都市の形成 	<ul style="list-style-type: none"> 多様なエネルギー利用の進展 備蓄・融通利用によるエネルギー需要の平準化 	<ul style="list-style-type: none"> 温暖化抑制、ヒートアイランド抑制による北国らしい季節感の保全 積雪寒冷な気候特性を活かした屋内外の環境性や快適性の向上
	経済	<ul style="list-style-type: none"> スマートなエネルギー利用によるエネルギーコストの低減 低炭素なまちづくりに向けた建替と投資の促進 省エネ・再エネの取組を通じた地域内の産業活性化や経済循環の形成 	<ul style="list-style-type: none"> 災害対応力の強化による経済活動の安定化や信頼性の向上 強靱なエリアへの企業立地、投資や人材集積の促進 	<ul style="list-style-type: none"> 回遊性向上による都心全体の活性化と資産価値の向上 過ごしやすさ、ワークライフバランスの良さを感じた人材や企業の集積 快適で魅力ある空間の創出による観光・MICEの促進
社会	<ul style="list-style-type: none"> 市民や企業の環境に対する意識の向上や地域の結びつきの強化 世界から信頼・尊敬される都市像の形成 	<ul style="list-style-type: none"> 市民、就業者、来街者への安心安全の提供 地域の企業・関係者間の協力体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 就業者・滞在者の健康促進や余暇の充実への貢献 市民・来街者の満足度向上による都市のブランド力の向上 	

【第4章 計画の推進】

取組の進め方：まちづくりの進展に合わせて進める2050年までのロードマップ

推進体制：プラン策定段階「都心エネルギープラン検討会議」、プランの推進・発信段階「(仮称)都心エネルギープラン推進協議会」、研究開発・産業創出段階「(仮称)札幌環境エネルギークラスター」

計画の管理・見直し：(仮称)都心エネルギープラン推進協議会を中心とした進行管理、PDCAサイクル

関係者の役割分担：プランの実現に向けた、市民・民間事業者/エネルギー事業者/札幌市の役割